

ネギ病害虫の発生状況と対策について

7月に入り気温が高い状態が続いており、夕立など豪雨も発生しています。褐色腐敗病や白絹病の発生しやすい状況のため、以下を参考に予防防除を徹底してください。

1 病害虫の発生状況と対策

○病 気

「褐色腐敗病」

発生状況

- 発生は確認されていませんが、発生しやすい気候となっています。

症 状

- 軟白部がすじ条に褐変する（調製時に見つかる）
- 症状がひどくなると、軟腐病と同じように倒伏するが、軟腐病のように悪臭を伴うことはない。甘い匂いがする

対 策

- 豪雨前後に「ヨネポン水和剤」を散布しましょう。
*特に、日中高温乾燥になり夕方に豪雨があるような日とネギの襟元から雨水や土が侵入しやすく、褐色腐敗病になりやすいため注意が必要です。



「白 絹 病」

発生状況

- 発生が確認されています。
- 今後、連作圃場を中心に、多くの圃場で発生すると予想されます。

症 状

- 株もとに蜘蛛の巣のような菌糸やピンク色のつぶつぶ（菌核）が発生。
- 発生株では生育が停止。

対 策

- 発生を確認した場合には、ロブラール水和剤またはアフェットフロアブルの灌注処理を行いましょう。



○害 虫

「ハモグリバエ類、アザミウマ類」

発生状況

- ・ハモグリバエ類は被害が増加傾向、アザミウマ類は発生が多い状況です。
- ・ハモグリバエ類については今後発生が急増すると予想されます。

対 策

- ・1か月ごとの粒剤の施用を継続しましょう。
- ・一斉防除（詳細は以下のとおり）を実施しましょう。

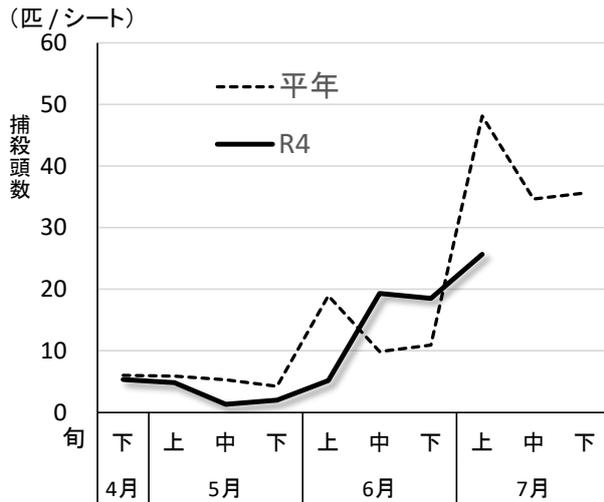


図1 ハモグリバエ類の発生の推移

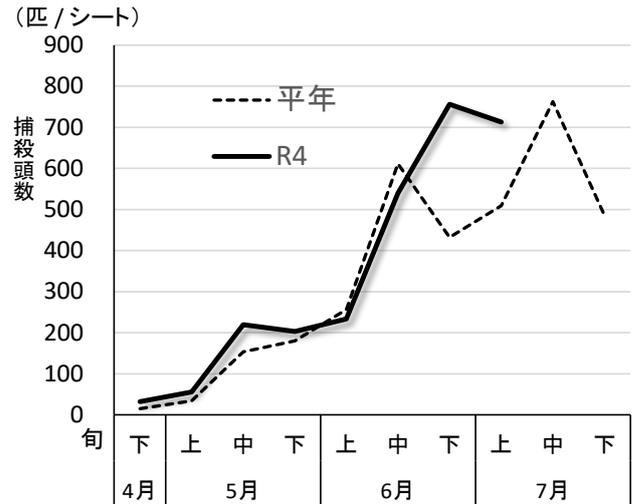


図2 アザミウマ類の発生の推移



「一斉防除実施のお願い」

7月中下旬にかけてハモグリバエの発生が急増すると予想されます。

液剤による防除を地域でまとまって実施することにより、効率的にハモグリバエの発生を抑えることができます。

下記のとおりハモグリバエ類の一斉防除についてご協力をお願いします。

防除時期：令和4年7月19日（火）～22日（金）のいずれか1日

防除回数：1回

※被害が大きい場合には1週間後にもう一度防除すると効果的です。

使用農薬：ハモグリバエに効果のある薬剤

（リーフガード顆粒水和剤を推奨）

「ネダニ」

発生状況

- 発生は確認されていませんが、発生しやすい気候となっています。

症 状

- 葉先から枯れはじめ、なかなか進行が止まらない。
- 被害株を引き抜くと簡単に抜けてしまい、根がほとんど残っていない。

対 策

- ひどい葉枯れ症状が発生した場合には、JA または奥越農林総合事務所にご相談ください。



* 農薬および今後の管理については、6月30日の現地栽培講習会で配布した資料を参考にしてください。